

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成30年度第8回）議事概要

日 時：平成30年11月30日（金）10:00～11:30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

I. 前回（平成30年度第7回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を南理事と小野監事に依頼。

II. 審議事項

1. 6カ年方針

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・6カ年方針における目標と試算について、平均在院日数の目標を達成し、DPCの単価を上げ、手術件数も増やすという理想的な戦術となっているが、例えば、手術件数を増加させるため、手術室増設や麻酔科人員増強等の具体的な計画はあるか。
- ・センターのミッションを果たすために、どういう患者さんを治療すべきかという視点が必要。経営資源が限られるのでリソースを再分配するしかない。均てん化という点でも、トップランナーとしての役割を果たす点でも、一般の医療機関で出来るものは手放していき、最先端に挑むことを各論において考えていかななくてはならない。
- ・病院の建替は必要な話なので、その計画を見直すということではなく、本来やるべきことをやっていく中で、無理しなくてもできるような経済的基盤の構築についてさらに考え続けることが重要ではないか。
- ・これを作ったから安心できるものではなく、実現するには高いハードルがあるなどの意見もあった。大きな流れとして、これだけの収支差が確保できれば、建替は可能であろうということで、これが出来たら建替が出来るという順番のものであって、これが出来るので建替をやりますというものではない。
- ・収益の水準によって、建替が出来るくらいキャッシュが残ったり、キャッシュが枯渇して建替は出来ないといったことが読み取れる。毎年、中長期の変動を見ていかないと、建替の可否が読み切れないものであると理解した。

2. 6NC在り方検討会の検討状況

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・今の厳しい状況を乗り切るため、検討会でも一本化すべきのような意見も見受けられ

るので、そうなったときの対応も考えておいた方がよいのではないか。

- ・どのくらい時間をかけるかの問題がある。連携について、どのような横串を挿すのか、何をするために統合を検討しているのか。団結と連携か、選択と集中か、競争と淘汰か、色々な選択肢がありえる。
- ・6 N Cはそれぞれ特色があり、急性期と慢性期でも守備範囲も違うので、一法人にまとめることで法人運営がより合理的に機能するのかというと、疑義を感じる。雰囲気だけに飲まれないよう注意すべき部分もあるのではないか。
- ・組織統合により不合理な内部補助が生じ、欠陥が見えなくなることもある。

3. 事務部門改革の取組状況と今後の方針

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・職員が「改革」の精神を納得し、職務の隅々に至るまで、仕事を効率化、適正化しなくてはいけないという意識にならないといけない。
- ・事務職員の在り方の全体の中で、プロパーとして経験を積んで管理職に上がれるような人事形態に期待したい。

III. 報告事項

1. 2019年度がん対策情報センター「患者・市民パネル」

資料に沿って報告された。

2. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

3. 広報実績

資料に沿って報告された。

4. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・旧研究棟、交流会館の解体後は緑地にする計画を聞いていたが、これらの計画はどうなったのか。建築許可はどうなのか。

5. 10月分月次決算等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・今の調子が維持できれば、キャッシュフローの確保は問題ないということか。